

第1回大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会 要旨

日 時：平成25年8月28日（水） 午前10時00分～午前11時40分

場 所：大阪狭山市役所 第1会議室

出 席：今西委員長、大方委員、安藤委員、山田委員、山村委員、松島委員、花田委員、
片本委員、菊屋委員、青森委員、田畑委員、小谷委員、竹口委員、車谷委員、
柳委員

（欠席）新坊副委員長

：事務局 橋上教育部長、能勢教育総務グループ課長、上尾主幹、隅谷

次 第 1．開 会

2．教育長あいさつ

3．委員紹介

4．委員長・副委員長選任

5．議事

（1）大阪狭山市教育振興基本計画について（資料2）

教育振興基本計画とは

計画策定の背景

（2）大阪狭山市教育振興基本計画の策定体制について（資料2）

（3）大阪狭山市教育振興基本計画の策定について（資料2）

計画の位置付け

計画の期間

（4）大阪狭山市教育振興基本計画の策定スケジュールについて（資料3）

6．閉会

1．開会

2．教育長あいさつ

3．委員紹介

4．委員長・副委員長選任

委員の推薦により、全員異議なく、今西委員長を選出

その後、委員長の推薦により、全員異議なく、新坊副委員長を選出

5．議事

（1）大阪狭山市教育振興基本計画について

- (2) 大阪狭山市教育振興基本計画の策定体制について
 - (3) 大阪狭山市教育振興基本計画の策定について
 - (4) 大阪狭山市教育振興基本計画の策定スケジュールについて
- 事務局より、資料 2、資料 3 に基づいて説明。

< 以下は議事の要旨です >

委員長：ただ今の説明について、質問、意見等はないか。

委 員：最後に「大阪狭山市教育振興基本計画を策定するにあたって、国の教育振興基本計画と大阪府の教育振興基本計画を踏まえて」とあるが、国と府と全ての事項を取り入れた上で、大阪狭山市として、その上に肉付けしていくのか。または、国のいいところ、府のいいところを取り入れて、大阪狭山市として付け加えていくのか。

事務局：あくまでも、大阪狭山市独自の計画という形で作っていきたいが、国や府の分を全く無視するわけにはいかないので、後者のいいところ取りという形がイメージとしては近い。

委員長：教育振興基本計画というものは、これまでなかったもので初めて作ることになるが、国や大阪府の意向も全く無視することはできないので、国や府の内容も踏まえつつ、大阪狭山市独自の素晴らしい計画を作っていきたいと思っている。

委 員：国は 10 年を目指し、本市は 5 年間で方向性を示すとなっているが、その辺の違いについて説明願いたい。

事務局：今、教育を取り巻く環境が劇的に変わろうとしている。今の段階で 10 年先を目安にして目標を立てた場合、劇的に変わればその都度変えていく必要があるが、原則的には 5 年目の P D C A プランサイクルで点検・評価をしていく形になる。5 年間にした場合は 3 年目に見直しをかけるので、2 年の間に変わった場合はその段階で変えることが可能なので、今回については 5 年間にさせていただければと考えている。

委 員：決定事項のように見えるが、そのポイントは変更できないのか。

事務局：事務局の案を提示して議論していただき、その意見に基づいて案を修正していくもので、決して決定ということではない。

事務局：教育を取り巻く環境は本当に激変している。特に、政府の教育再生実行会議は教育委員会制度の根幹を揺るがすような提言をしており、それについては今、文科省の中教審で審議されている。10 年となると先が読みにくいということがあるので、できれば 5 年先を見据えた上で、やっていきたいというのが今の考えだが、もう一度、皆様のご意見

を頂戴しながら決定したいと考えている。

委員長：教育振興基本計画は基本的に 10 年単位のものだが、現実的には大きな教育改革がこれからどんどん出てくることになる。特に政治的な問題があり、より一層加速されるかと見ており、そういう意味で教育委員会としては 5 年の提案をされていると理解している。

委員：大阪府が 10 年で計画され、前半 5 年を事業計画という具体的な施策があるので、5 年というスパンであれば、同じように 10 年の基本計画を立て、前半 5 年を事業計画という形も可能ではないか。

委員：5 年で終わるというより、10 年も見据えているが、状況がどんどん変わってきているので、今回は 5 年で節があるようなイメージかと感じている。

委員長：教育再生実行会議など自民党からの提言もあり、そういう不透明な部分がこれから急速に明らかになってくると思う。今の段階ではそういう大きな改革が予想されるので、5 年くらいという考え方で事務局が提案されていると思うが、それについて、他にご意見はないか。

委員：国の長いスパンの方針があり、あくまで国の方針に基づいてやるが、市町村としては実行計画という感じで肉付けしていけばいいのではないか。10 年にすれば、先の分からないことまで計画できるのかということもある。短くやったほうが、じっくりと見直していけるということからも 5 年がいいのではないか。

委員：今は子どもたちを中心に変化が早く、遠い先を見据えることも大事だが、今の現実をできるだけ早くきちんと把握していくことも大事なので、5 年間がいいのでないか。

委員：年数にこだわるより、基礎になるものを決めるためのものという認識で選んでほしい。

委員長：他にないか。それでは、時間があるので、委員に就任されて思っていることを、お一人ずつ述べていただければと思う。

委員：子ども会や P T A に長い間関わり、保護司も 20 年近く務めている。現在、地区長もして子どもや子育てについて、いや応なく考えさせられている状況で、子どもを育てる保護者の関わりが非常に重要だと感じている。どこまで親が真剣に子育てに関与しているか、その辺が子どもの成長の結果に結び付くのではないか。いかにそれを担保するような方向に持っていけるかという計画作りができればと思う。

委員：40 年ほど前に子どもフォーラムで世話をしたことがきっかけで今日まできている。文化協会は高齢化しているが、自分の子ども、孫、それ以外の子どもを 40 年間見てきて、こ

れからの子どもたち、これからの世代の人たちのことがとても気になり、何か手助けができればいいと思っている。

委員：教育に関しては学生時代に教育学を習ったが、それ以降はスポーツばかり。本市でサタデースポーツという事業を起こし、毎年、120 人ほど子どもさんを預かって、テニスを通じて子どもさんや親御さんと関わっている。学校とは違う社会体育の中でつながりを持ってきた経験で、こういう場で皆さんと一緒に教育の基本について議論できることを非常に有り難いと思う。

委員：保育園で園庭開放をしたり、5 カ月未満の体操教室を行ったり、普段から地域の子育て支援に関与している。大阪狭山市の教育に関しては、キャリア教育や保幼小中の連携の部分で参加し、小学生との交流会、中学生の職業体験等で小中学生の様子も拝見する。実習生や新卒職員を見て、この 20 年で以前とは全く違うので、教育という部分で考えていく必要があると感じる。保育を取り巻くいろいろな社会情勢の中、保育園としても園独自の保育課程の中で考えていくべきことがたくさんあると思うので、いろいろな話を聞いて考えていきたい。

委員：多くの知識をお持ちの皆さんと違い、一般主婦なのでとても緊張している。結婚して和泉市から大阪狭山市に来たが、とてもいい環境で子育てができてうれしく思っている。これから先の教育について少しでも役に立てればと思っている。

委員：10 年前は保育所、幼稚園、小学校、中学校と、それぞれが自分たちの担当する間の教育を担当していたと思うが、近年は、それぞれが連携することが進んできていると思う。狭山で生まれて生涯幸せな人生だったと思えるように、教育の部分でこういう委員会に参加させていただくことは大変うれしく思うと同時に、あらためて幼稚園の教育は生涯にわたる教育という思いにさせていただいた。

委員：学校現場を見て幾つかのキーワードを感じている。1 つは「学力」、子どもたちの基礎学力をどう付けていくか。2 つ目が「徳性」、子どもたちの心をどう育てていくか。3 つ目が「地域」、1 週間ほど前にある方が校長室に来られ、10 年後に地域をどういうふうにしようとするような子どもに育てているかと言われ、こういう視点が必要だと思った。例えば、小学校区にある文化財的なことや地域にあるものを子どもたちは知っているのか、そういうことも視野に入れて教育していかなければいけないと気付かされ、子どもたちが大人になったときに本当に役に立つ力とは何かということを考えていた。狭山の教育が大好きで、時々少し変わったことをされるが、それは子どもに返っていくので、他の所にとらわれず、狭山の良いところを出せるような計画を作っていきたいと思っているので、ぜひ、いい知恵を出していただきたい。

委員：社会の中で自信を持って生きられる子をつくりたいという気持ちである。この間、非常

に世代交代が起こり、小学校も中学校も経験があまり多くない若い先生方がたくさんいる。経験がないという弱みはあるが、若さは強く、非常に元気に頑張っているので、頑張りがもっとうまく子どもたちや保護者に通じるようにやっていきたい。基本計画を策定してそれに伴う実行計画があるが、この策定委員会が実行計画のほうを作る感じになるのであれば、短いスパンでできるのかと思う。その辺が分からないが、これから自分なりの考え方を述べさせていただきたい。

委員：一番下の子が生まれるときに家での仕事に転向し、保育園の送迎をしたり、役員をしたり、子ども未来検討委員会にも参加して市の小学校、幼稚園、保育園を随分回り、興味を持っていたら色々させていただく中で、多くのことを勉強させていただいた。子どもたちにも身近な存在に感じてもらっており、自分の子のように、いいことをすれば褒め、他の方が敬遠するような悪いことをすれば叱るということもしようと心掛けている。

委員：子どもも幼稚園児と小学生なので、これから自分の子が直面する教育に関して興味がないわけではないが、資料を見たときに、一主婦なので内容が半分も分かっているのかと思う。自分も狭山で育ったが、子どもの宿題も、学校の体制も自分のときとは全く違うので、子どもを通して狭山の教育について一から考えていく立場だと思っている。子どもが食事で苦手なものがあるときに、明日のあなたの体を作るのではなくて10年後のあなたの体を考えて一生懸命作っているから頑張ってお腹いっぱいという話を時々する。それと同じで教育も今変えたことがすぐに変わるのではなく、子どもに分かりやすく説明するには、やはり10年という形が生きてくると思う。自分の子どもが直面している狭山市の教育に関心を持って会議に参加したい。

委員：PTA歴は長く、東小学校、狭山中学校、狭山高校のPTA会長を務め、学校協議会の委員を現在続けている。青少年指導委員、総合型地域スポーツクラブ会長もさせていただいた。15～16年前、東小学校のPTA会長時代に、神戸の児童連続殺傷事件が発生し、東小PTAとして大阪府で一番早く、子どもの安全の取り組みをしたということで大阪府でも発表したが、「守ろう、子ども」というキャッチフレーズで始め、今も狭山市のいろいろなもので利用されている。「守ろう、子ども」の目的は地域ぐるみで心豊かな子どもをつくろうという運動で、心豊かな子どもをつくっていけば全ての問題は解決していくのではないかと、それを地域でやっていけば地域の人も心豊かになる。それを続けていこうということで、頑として協議した。私自身も大阪狭山市は地域と学校との連携が進んでいると思っており、それを基本計画に盛り込んでいけたらと思っているので、いろいろ勉強させていただく。

委員：子ども2人を保育園や幼稚園にお世話になりながら昨年3月まで働いてきた。教育の関わりとしては、大阪府の養護学校の養護教諭を25年間勤めてきた。自分の子育ての経験と養護学校で勤めた経験で何かお手伝いできたらと思い、応募した。

委員：最近、子どもたちが自分で考えられず、次は何をしたらいいかとよく聞いてくる。一度、自分で考えようと声を掛けるが「分からない、分からない」と言い、普段はどうやって生活しているのか、学校ではどうやって遊んでいるのかと心配になっている。クラブでは自分で考える力を付けることを指導方針として挙げているので、狭山全体の子どもたちに活用できる部分があれば、委員会で発言させていただき、反映していただきたい。

委員：狭山の教育委員会に委員長と一緒にに関わり、子育て支援センター「ぼっぼえん」の立ち上げにも参加した。保育大学をつくるとき、乳児期、幼児期、児童期の子育て指導連続性が既に深刻になっていて、その辺を連続的にできる人材養成ができればということでそういう人材が教員としても求められる。知らない土地で子育てをしているときに市町村の違いや地域性など、専門家と言っても非常にカルチャーショックを受けた。そのときは行政がすぐには動いてくれなかった。当時、自分の家を場所提供して親子の方々が来ていたが、学校で、いじめのような問題は既にたくさんあり、なかなか解決できなかった。不登校の子や家庭内暴力も出現していて、生活を共にしたりして自分の人生を変えようかと思ったときもあったくらいだった。今西先生が委員長になられたので、制度や施策にとらわれず、狭山に必要なことをやってくださると大きな期待をしている。狭山の教育委員会はかなりいろいろなことをきっちりと継続的にやってくださっているので、それを軸にしながら、大変なことであろうが、保護者のケアにしても、幼稚園でも、その子たちは人であって、今、この狭山にいるということを中心とした施策や制度であり、実態の把握でなければ、国はどんどん方針が変わっていくので、右へ左へ崩れてしまうと何のための会議だとなる。アンケートも取られて根拠ある会議になると思うが、どうしても多数決で決めてしまい、少数の意見は反映されにくい。少数であっても現実の狭山にあれば、そこを共通理解してみんなで考えていけば、より現実的なものになり、恐らく5年たてば狭山はきらっと光り、地域の方々がもっと参加するようになると思う。

委員長：大阪市の教育振興基本計画をはじめ、幾つかの町の策定に関わってきて、直近では今年、京都府亀岡市の教育振興基本計画を委員長としてやり終えた。堺市の泉北ニュータウンの住民で、堺市南区はまちづくりから始まり、私の目から見れば、残念ながら少し批判的に見えてしまい、大阪狭山市はうまくいっているなという羨望がある。特に教育については大阪狭山市はとてもユニークで内容が充実している。学力テストも全体的に見れば非常に良いところに位置付けられ、狭山の教育は非常にうまくいっていて、社会教育の関係者も本当に熱心で非常に素晴らしいと思っている。第二期教育基本法の中で「自立」「協働」「創造」という3つのキーワードがあるが、いずれも狭山市でこれまで掲げてこられたテーマである。特に「協働」は、日本では狭山が草分け的な立場だと思っており、市民の方々の力で狭山をつくってこられたことと文科省の教育基本計画の1つの大きな思想性が一致することをうれしく思いながらこの場に立たせていただいた。皆さん方から大変貴重なご意見を頂き、特に5年か10年かということ踏まえ、まず、教育振興基本計画はあまり細かいところまで入り込まないほうがいいのではないかということと思う。国の変化が激しく、6・3・3・4制すら変わる可能性があり、今の状態だ

けで考えるのは少し難しい。しかしながら、教育の本質は変わるものではなく、先ほど委員から人間であることが大事だというご指摘を頂いたが、こういうことも大事にしたいし、別の委員が言われたように具体的な課題をきちんとやっていくことも大事なので、この辺のことをうまく組み合わせながら皆さん方と共に計画を作っていきたいと思っている。

今後のことについて、会議の前に事務局と少し相談したが、事務局は、狭山の住民の方々が教育についてどうお考えかという意識の実態をまず知り、それを踏まえて、内実化を図るのが来年度の作業ではないかという考えで、本年度、秋から冬にかけて意識の実態を探るアンケート調査を 1,000 サンプル行うということである。その結果を分析する必要があるので、次のことを見据えながら質問項目を委員会で議論していきたい。次回、事務局から出されるたたき台を見て皆さんの考えを教えていただき、修正して調査を実施し、今年度中に集約して、それをたたき台にして、どうしようかという話になるかと思う。

何か、言い忘れたことなどはないか。先ほど、ある委員が「基礎学力」「徳性」「地域」と3つ言われたが、「徳性」は道德の徳か。

委員：そうである。幅広い心を育てるという意味である。

委員：基本計画については市町村の場合はできるだけ身近なところで実行計画でと申し上げたが、国は全国一律の話に、府は大阪府全体の一律の話ということになれば、やはり、大阪狭山市は地域に合ったものということになるので、そこはうまく使い分けしたら良いかと思う。棚の上の飾り物にならないようにするには、その計画とは別に二段構えで実行計画的なものを考えておくことも必要ではないか。

委員長：国や府の計画は尊重すべきだが、狭山として地域独自のものを作っていきたい。理念的な計画と共に具体的な使い勝手のいい、結果が具体的に見えるような計画を作っていきたいというご意見かと思う。

委員：事務局にお聞きしたいが、市の第4次総合計画にある教育的な柱と教育振興基本計画との関連性についてはどうか。

事務局：第4次総合計画は上位計画であり、その計画の内容に反することはできない。今回の策定委員会では、総合計画の大きな6つの柱を基本に、新たな教育ビジョンを作っていたが、そうするためにはどういう施策が必要かということをお考えいただきたい。

委員長：他にご意見がなければ、本日の会議は終了する。

6．閉会

以上